

## 1 親切運動の取組の紹介

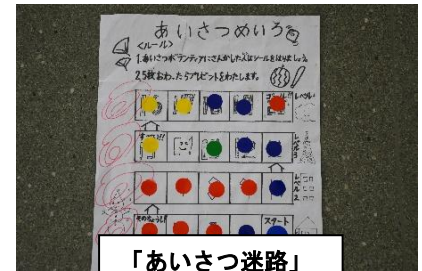
### ○「ハイタッチ挨拶運動」

5月に代表委員会で話し合い、「えがおいっぱい あいさつNo.1～心をつなごう経田っ子～」を学校のスローガンに設定した。このスローガンを具現化するために「ハイタッチ挨拶運動」を行った。挨拶を交わしながらハイタッチをすることで、たくさんの友達と心をつなぐことができると考えたからである。実際に取り組んでみると、目線が上がり、挨拶が苦手な児童も自然と笑顔になる様子が見られた。



「ハイタッチ挨拶運動」の様子

また、年間を通して挨拶運動に参加してほしいという願いから、「あいさつ迷路」を作成した。挨拶運動に参加してくれた人にシールを配布し、「あいさつ迷路」にシールを貼ってもらうことで、継続して挨拶運動に参加してくれる児童が増えてきた。



「あいさつ迷路」

挨拶運動を進める上で、「決まった人だけ挨拶運動に参加している」という課題が見えてきた。たくさんの人に挨拶のよさを感じてもらうために、学期の終わりに、学年全員で挨拶運動に参加してもらう「学年挨拶週間」を設定した。学級の友達と楽しく挨拶運動に参加することで、温かい雰囲気が広がった。

### ○「ちょこっとカード」

温かい気持ちを学校全体に広げるために「ちょこっとカード」の取組を行った。付箋に友達のよさや頑張っているところを書き、台紙に貼れるようにした。全校が通る玄関前の廊下に設置したことで、登校後や休み時間、下校時等、好きな時間に書くことができ、たくさんの人が取り組んだ。給食時の校内放送で付箋のメッセージを紹介したことも効果的であった。12月の人権週間では、学級単位で「ちょこっとカード」に取り組んだ。活動を通して、自分や友達のよさを進んで見付けようとする意識が高まった。



「ちょこっとカード」の取組

## 2 親切運動に取り組んで

### 【成果】

- ・挨拶運動や「ちょこっとカード」の取組を通して、人との関わりを楽しんだり、温かい気持ちが広がったりする様子を感じられた。
- ・挨拶がなかなかできない児童でも、ハイタッチを交わすことで笑顔で教室に向かうことができたり、友達を誘って挨拶運動に参加したりするようになった。
- ・「ちょこっとカード」の取組では、設置場所を工夫したことで、たくさんの児童が台紙の前で足を止め、じっくりと付箋のメッセージを読む姿が見られた。この取組を通して、自他のよさを認め、励まし合う温かい雰囲気が少しずつ広がっている。

### 【課題】

- ・校内では挨拶運動の効果が見えてきた。今後は、地域や家庭に広げていきたい。
- ・挨拶運動や「ちょこっとカード」の取組には個人差が見られた。主体的に行動できるような仕掛けが必要であると感じた。